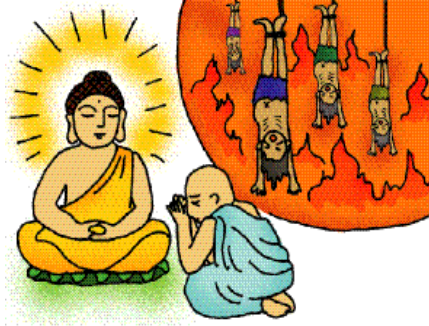


正覚

お盆号
通巻
第75号

お盆のいわれ



お釈迦様の十大弟子の一人に「神通力」第一と言われる、目連尊者という弟子がいますが、ある日、亡くなったお母さまが何処で暮らしているか、神通力を働かせて見た所、驚いたことに六道の餓鬼道に墜ちていました。そこで目連尊者は鉢にいっぱい盛ったご飯を食べさせようとすると、ご飯が口に入らないうちに、火となって燃え上がりお母さまが食べることが出来ません。お母さまは骨と皮の痩せ衰えた姿となり、苦しみの世界で「倒懸」（逆さに吊るされること）という責め苦を受けていたのです。母親思いの目連尊者はすっかり悲しみに打ちひしがれ、何とかしてお母さまを救いたいとの一心で、お釈迦様のところへ行き助けを求めたのです。するとお釈迦様は次の様に言いました。「今は、修行僧が安居（一ヶ所に集合）して修行中である。七月（八月）十五日が来ると「僧自恣（そうじし）（安居の解散）」の日となる。その日には信者の人達が修行僧に飲食を供養する習わしがあるので、その時、出来る限りの飲食を僧達に供養するならば、お母さんの為だけでなく、七代にわたる御先祖様、餓鬼道に墜ちた有縁無縁の人々、生きとし生

ける者を救うことが出来るであろう。」と言われ、その通りに供養したところ、目連様のお母さんを始め、多くの餓鬼道に墜ちて苦しんでいた者たちは救われ、極楽の浄土世界へと導かれたのでした。これがお盆のいわれであります。

*孝行したい時分には親は無し

石に布団は着せられず

親の苦勞がわかる年ごろとなって、親の御恩に報いたいと思う時には、もう親はこの世には居られない。誰もが感ずる所ではないでしょうか。特に年が経つにつれ、やさしく美しい思い出がつのつてくるものです。子供にとつて、また、私たち人間として大切なことは、御恩になった方への御恩を何時までも忘れずに思い続ける「思恩」の心ではないでしょうか。お盆には家中みんな揃ってお墓参りをし、そして、家に御先祖をお迎えし、今の私たちの成長した心、姿を見て頂き、ご報告して、安心して頂く事はお盆の大切な心得です。

*報恩感謝の心

昔からお盆は、御先祖様への感謝の行事として行われて来ます。しかし、お盆の行事は自分の両親や御先祖様への感謝だけでなく、誰からも供養されていない多くの無縁となつている霊に対しても目連尊者のお母様と同様に感謝の心を手向ける行事でもあります。

私たちにとって凡そ無縁のものはありません。すべての生きとし生けるもののお陰で生かされています。たとえ目に見えなくても無数の方々のお陰様で今日の自分があります。この様な無縁さまにも御恩を忘れず、本年もお盆を迎えるにあたり、この様な心を持ち、真心を込めて御先祖様の霊をお迎えしたいものです。

正覚寺副住の為の転版式

正覚寺徒弟玄軌禪師は昨年の平成二十九年八月下旬に正覚寺へ帰山致しました。この一年間は住職と共に法要・葬儀や境内整備・維持管理に務めて参りました。来たる十一月十五日には、鎌倉の大本山建長寺にて「転版式（てんぱんしき）」という行事が行われます。この転版式は僧堂修業を終えた徒弟は必ず行わなければならない大切な行事となっております。これを行って初めて正覚寺の副住職となり、後の住職への階段を上る大切な行事で、本山の鎌倉建長寺へ出向しての儀式となります。今回のこの転版式を終了すると正覚寺副住職となりま

す。正覚寺として、一泊二日で大本山鎌倉建長寺へ出向き、正覚寺に縁のある法類寺院として宝福寺さん、津久井中野の祥泉寺さん、そして、津久井建長寺派の現在支部長さんである城山久保沢の大正寺さん、それに幾人かの関係寺院和尚さん、更に代々の正覚寺責任役員である山口芳文さんをはじめ、御協力頂ける各地区総代の皆様と共に、徒弟玄軌禪師の副住となる儀式に参列して頂く事となります。



転版式前日は、玄軌禪師の習礼（予行演習）風景を御覧頂きます。また、建長寺山内にある正覚寺と法縁のある塔頭・妙高庵への挨拶に同席して頂きます。そして、日頃の御無沙汰を詫びお礼を述べます。指揮当日の十五日は、早朝四時頃起床となり、管長様や建長寺出向役員和尚様方、山内の塔頭寺院和尚様方と共に建長寺の伽藍を一同一緒に巡り、大切な転版式に同席して御覧頂く事になります。尚、転版式の様子等は来年の正覚寺新聞正月号に詳しくご紹介できると思ひます。

第四十回

正覚寺句碑祭俳句大会

正覚寺境内に句碑建立された方を中心に、昭和五十三年より正覚寺の句碑祭俳句大会が、春の五月の連休頃、開催されてきましたが、本年、平成三十年で第四十回と成りました。前任亮因和尚の俳句寺構想の基、相模湖俳句会や藤野俳句会の皆様には、境内への建立は他地域の句友の皆様に開放される様にと、ご遠慮され裏山に礎となる句碑を建立して頂きました。

お陰様で現在の正覚寺境内には、数えて二百四十余基の句碑が建立されています。近年は、開催日も四月三十日と決められ、相模湖・千木良俳句会の句友の皆様のお協力を得て継続開催されて来ます。境内へ建立された方々も近年は故人となつて参りましたが、本年の第四十回は、いつも句碑祭俳句大会には神奈川俳句連盟より金一封が県連盟賞という形で高得点者に授与されますが、今回は遠方より俳句連盟の役員の方々も九名参加され、第四十回の節目に相応しい句会となり、五十三名の参加者を頂きました。



先住の遺した俳句寺の名称を今後、現住正法・次住玄軌共に護持する所存ですので、これから檀信徒の皆様も檀信徒の皆様御協力お願い申し上げます。

墓参後のごみ持ち帰りのお願い

住職も年三回ほど、墓の参道に除草剤を撒布し清掃に心掛けております。以前に比べて墓地内も、カンやビン、花のお持ち帰りにより、きれいに成つて来ましたが、まだまだ、お持ち帰りのできない方や家もあるようです。「墓地は神聖なる地」であります。他の霊園墓地同様、お供え物、供花のお持ち帰りの徹底をお願いします。